

# 国語科3年「想像をひろげながら読もう」

浜松市立和地小学校 竹田良子

## 1 はじめに

附属浜松小学校で述べられている国語科の本質、「『読む・書く・話す・聞く』などの言語活動を通して、言葉の働きを捉え、自分の考えを形成する」ことを具現化するために、児童が追究したいと感じられる課題を設定し、その解決に向けて、自律と協同の能力を育みながら学びが進められるような単元構想が重要であると考えた。

本学級は、読むこと、書くことに苦手意識をもっている児童が少なくない。また、読んで想像を広げたり、叙述をもとに思いを理解したりすることはさらに苦手である。そこで、児童にとって身近な「空」を想像し言葉で表現するという言語活動を設定し、想像を広げながら、主体的に読み深めることができるように単元を構想した。

## 2 実践

### (1) 対象との出会いの工夫

本単元で身に付けさせたい力として「登場人物の気持ちの変化や情景などについて叙述をもとにして想像して読む」ことに重点を置いた。この力を付けるために「ちいちゃんが見た空を想像しよう」という学習課題を設定しようと考えた。この学習課題に児童自身の思いがたどり着くように導入を工夫した。

物語を読み聞かせる前に空の映像をたくさん見せた。そして、その空を見て自分はどう感じるか、どのように思うかを自由に発言させることで一言に「空」と言っても様々な空があり、「青空」も一様ではないことに気付かせたいと考えた。さらに、「青空」にも清々しい青空もあれば、嵐を予感させ、気持ちが暗くなる青空もあることに思いがいくようにした。

普段自分たちが何気なく見ている空から様々なことを想像したり、感じたりすることができることに気付いたうえで「ちいちゃんのかげおくり」に出会うことにより、ちいちゃんはどうのような空を見たのか、どのような空のもとに生きたのかなどを考えながら聞けると考えた。読後に「ちいちゃんの見た空を考えたい」という思いをもつ児童が数名いて、その思いを共有することで「ちいちゃんの見た空を想像しながら読もう」という課題を児童の考えから設定することができた。

### (2) 言語活動の工夫

作品を読み、叙述をもとに広げた想像を自分の言葉で表現していくという言語活動を行うことで、自分の考えを形成したり、明確にしたりすることができると考えた。

そこで、本單元では、毎時間自分が想像したことを絵日記のように上に写真や絵、下には想像のもとになった本文中の文や表現と、そこからどのような空を想像し、登場人物のどのような心情に気付いたかを書くようにした。そして、最終的にそれを横につなげ、巻物にすることで、ちいちゃんの気持ちや状況の変化が一目で分かるようにした。このように児童の考えを視覚化したことで、ちいちゃんの状況が並べられた写真や絵からどのように変化したか、文からちいちゃんの思いがどのように変化したかを捉えることができた。また、毎時間、友達との交流の時間をもつことにより、同じ場面を読んでも、注目する文や表現によって、捉え方が違うことに気づき、協同しながら読みを深めることができた。そして、交流を経て、再度自分の読み方、想像の仕方を振り返る際に、友達の考えや想像を取り入れたり付け加えたりすることで、新しい視点で読むことができる児童もいた。

### (3) 学びを発展させる工夫

「ちいちゃんのかげおくり」を学習する傍らで戦争をテーマにした絵本を教室に置き、児童が手に取って読めるようにした。また、朝の読書タイムなどで教師による読み聞かせを行い、その都度登場人物がどのような空を見たかを想像させた。繰り返して行っていくうちに、児童は「ちいちゃんのかげおくり」で学習したことを他の作品でもやってみようと思いを高めた。そこで、「ちいちゃんのかげおくり」と同様の短冊を他の作品でも書き、それを基に本の紹介を行った。同時に、短冊と本を持ち帰り、家庭で保護者に絵本の読み聞かせを行うことを課題とした。自分で選んだ絵本の読み聞かせを家族にすることで、家庭の中で戦争が話題になり、児童が想像した空を共有したり、印象に残る場面について話し合ったりする家庭もあった。保護者からは「戦争について親子で考える機会となった」や「子供が想像した空の説明を聞いて自分もいろいろな空を想像した」などの感想が寄せられた。

## 3 成果と課題

本單元では「空」に焦点をしばり、想像を広げる学習を行った。教材文との出会いの際に、「ちいちゃんが見た空を想像したい」という願いをもつことができたこと、また、自分で表現を選び、自分の考えをもって進めることができる言語活動に取り組んだことで、児童は最後まで意欲的に学習を進めることができた。しかし、児童の思いや注目する文、表現が多岐に渡ったため、全児童に対し、必要なときに必要な支援ができず、読みを深めることができない児童もいた。児童の思いを汲み、深めることができる支援の在り方について考えていきたい。